

# 2015年度／平成27年度 学校評価公表シート

岩見沢聖十字幼稚園

## 1.園の教育目標

- ・あかるい子ども  
聖書の言葉に親しみ、苦しいときや悲しいときにこそ、くじけずに進める子ども
- ・元気な子ども  
豊かな自然の中でからだをきたえ、こころもからだも芯から粘り強い子ども
- ・かしこい子ども  
さまざまな文化に触れ、行事をつくる体験から学び、自分たちで考え行動できる子ども
- ・やさしい子ども  
悲しんでいる人、困っている人に共感できる優しい子ども

## 2.本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画

- ・保育環境の整備・充実 ・行事の実施場所や内容の改善 ・特別支援－合理的配慮についての研修

## 3.評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
・園の教育課程は幼稚園の教育要領を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成している。	・園の教育理念・教育目標を教職員が理解し、具現化するためのプログラムを組み立てている。
・幼児期の発達にふさわしい生活を展開できるように指導計画を作成している。	・園児の発達に合わせた保育を考え、たくさんの活動をきめ細やかに配置し工夫しながら実施している。
・安全で清潔感のある環境構成をしている。	・未就園クラスの拡充に伴い、保育に使える部屋の整備に力を入れてきた。ただ、毎日の丁寧な清掃を心掛けているが、園舎(特に水回り)の老朽化に伴って、流し台やトイレのまわりなどの工事が必要になってきている。衛生に関する習慣づけや、体力づくりの成果で、感染症の拡大は見られなかった。
・幼児一人一人の姿を受け入れ、その子の良さを認めるよう心掛けている。	・こまめに保育者同士の情報共有をし、チームとしてひとりひとりの保育にあたることができた。また、特別支援の必要な園児に対する指導方法を研修できたことが、先生たちの力になった。
・保護者との信頼関係を築くように努めている。	・家庭訪問、個人懇談、親子レク、送迎の時間、お便りノートなどを使って園児の様子を保護者に伝える努力をしていた。また、ホームページで日々の保育の様子をきめ細やかに伝えている。
・地域の自然や社会とのかかわりを持つように努める。	・森での活動やすり山登山、田植え等、ふるさとの自然を十分保育に生かしている。また、環境教育でのゴミ拾い、老人ホーム慰問、バザー、フェスティバル、収穫感謝の餅つき、歩くスキー等、様々な場面で地域の方との交流の機会も多い。今後も地域に根差した保育を行いたい。
・保育者としての専門性を高めるための各研修会に積極的に参加する。	・正採用職員に限らず、職員全員が積極的に研修会に参加した結果、年間延べ93名が各地で学び、日々の保育に生かせるよう努めてきた。
・人事管理・財務管理を適正に行う。	・公認会計士により、適正に運営されていると認められている。

4.学校関係者評価委員会の総合的な評価結果

結果	理由
A	<p>園長、教職員については、客観的に自己評価がなされており、実践事項などから努力の跡がうかがえる。・職員の共通理解が図られ、子供たちのために活動しようとしていたことが推察される。多くの項目でAが多かったが、「地域とのかかわり」「研修と研究」でBが多くみられたのは、自信のなさの表れだと思われるので、この点を改善してほしい。今後、教会とのつながりも評価で触れてほしい。</p> <p>・教職員と保護者の関係が非常に良好であることがうかがえる。また、保護者の言葉から礼拝の大切さやキリスト教徒の関係も良好であることが見え、バランスよく保育に生かされていることがわかる。・保護者の疑問や意見に対しては、幼稚園としての理由を明確に述べつつ謙虚に願いを伝えており、このような誠実かつ謙虚でぶれない対応が多く、支持者を得ることにつながっていて、聖十字幼稚園の良き文化であると思います。</p>

5.今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
安全管理	・個人情報の管理のため、現在できる最善のセキュリティーシステムを導入した。また、不審者対策としては、地域に開かれた幼稚園であることが最大の防犯になるよう、職員室に常時職員がいて出入りを確認できるようにしているが、さらに防犯カメラを設置し、録画しつつモニターでチェックできるようにしていく。地震等の災害に対しては、避難訓練や
教育課程の整備	・今までの保育の良さはそのままに、行事の精選、小学校への接続を考えたカリキュラムの補充と、キリスト教保育の充実、長年行ってきている外部講師による授業内容の見直しを進めたい。
保育環境の整備	・老朽化した室内備品や遊具の買い替え、園外遊具の見直しを行いたい。長期的には保育室の増築等。
園舎の改修	・園庭の土留めの改修、園舎の屋根の改修、1階トイレ周りの配線等の改修、駐車スペースの拡充、水回りの改修等。

6.関係者評価委員の意見

瀧澤聡 様(北翔大学生涯スポーツ教育学科)

【園長の自己評価について】

評価が、AおよびBであり、基準が達成されているということなので、特に意見はないです。園長1年目という大変ご苦労が多いと想定される勤務の中で、これだけの評価を得られたのは、新園長の能力の高さや誠実なお人柄等のためであり、さらに、職員がこのことを受け入れて共に子どもたちのために活動しようという共通理解が図られていたことと推察されます。

【教職員の自己評価について】

職員の評価に関して、「保育の計画性」「保育の在り方、幼児への対応」「保育者としての資質」「保護者への対応」は、Aが多く、Bがそれに次ぐという結果であり、一方で「地域の自然や社会とのかかわり」「研修と研究」では、Bが多く、Aがそれに次ぐという結果でした。このことは、職員の保育に対する意識として、この二つの領域では、あまり満足できるだけの結果を出していないという「自信のなさ」の表れであろうと推察されます。次年度は、この結果が少しでも好ましい結果を得られるように園全体で検討してほしいですし、どの領域においても、満足できる結果をだせるように努力する必要があると考えます。まずは、なぜこの2つの領域が他の領域と比較して

渡部 哲哉 様(岩見沢農業高校教諭)